えすぽわーる

2
2016
No.162
—SHINHAKODATE—

えすぽわーる新函館はＪＡ新はこだてとみなさんを結ぶコミュニケーション誌です

JA新はこだて
http://www.ja-shinhakodate.jp/

道南をたがやす

雪のような白さが自慢です。チコリーは冬の野菜の貴婦人

農す ― 生きる力を体現した容姿、自然本来の鮮やかな彩り、四季折々で地域の景観であり続ける「農産物」と、それを生み出す「農業者」たちをシリーズで紹介していく。

真っ白な箱に入ったチコリーを手に一枚。

【農産物】チコリー

北斗市追分
白石 裕 昭さん(55)
ひとみさん(52)

目を引くのは、白くきめ細かい肌。そして丸みを帯びた優しい形。その姿から「野菜の貴婦人」とも称えられる野菜だ。独特のサクサクとした歯触り、高級感のあるほろ苦さや香りに人気がある。

地中海が原産で、欧米ではポピュラーな野菜。19世紀のベルギーで栽培方法が考案され、今ではフランスで生産が盛んだ。サッカー日本代表の選手が紹介したことで、最近では国内でも注目が集まっている。

そんなチコリーを道南で生産している唯一の農家が、北斗市の白石裕昭さんだ。「北海ホワイトチコリー」の名前で出荷されるほか、「もぎたて市」や「ご近所野菜」などの直売で地元でも気軽に味わえる。

栽培のスタートは早く、7月に播種・育苗、8月に定植が行われる。夏の間、栄養を根にたっぷりと蓄える。大きく育った根は秋に一旦掘り上げて土に埋めて保管され、その後順次、ハウス内のベッドに移植される。1ヶ月弱ほどで再び芽が伸びると収穫を迎える。収穫は12月から3月ころにかけて行われ、冬場の収入源になっている。

白石さんの栽培方法は、移植した際に籾殻を30センチほどの厚さにかぶせるのが特徴。保温と遮光で一石二鳥の効果だ。さらに、「特別栽培農作物」の認証を受けていて、化学肥料や農薬を従来の半分以下に抑えている。その分、黒酢などの有機栽培に力を入れている。ラベルにはQRコードが付いていて、消費者がその栽培履歴を閲覧できる。

①畑の下で保管した根を掘り返すのが、一番の重労働だという。冬場の作業は雪かきから始まる。 ②被せる籾殻は、チコリーが完全に埋まるほどぶ厚い。 ③チコリーを傷つけないように、慎重に籾殻を除けて収穫する。まるで宝探しのようだ。 ④ご夫婦の手で丁寧に箱詰めされて出荷される。ホテルなどからも引き合いが強い。

そういったこだわりを支えるのが、奥さんのひとみさん。チコリーの様々な食べ方を教えてくれた。定番の肉などを乗せる食べ方の他にも、スープや冷しゃぶ、さらには天ぷらなど、調理法は多彩だという。旬の野菜が少ないこの時期、チコリーを試してみてはいかがですか？

えすぽわーる

NO.162／2016年2月号

CONTENTS

② 道南を農す

④ 特集 若者のパワーを結集！青年部の活動をご紹介

⑥ 協同の力

⑦ 新婚さんハッピートーク ～ゴール＆スタート～

⑧ トピックス
新年を風の子もちで祝って
関係機関に鏡餅を寄贈 他

⑩ Focus the JOB ～JAの仕事を紹介します～

⑪ あぐりレッスン

⑯ 地産地食図鑑

大野新道沿い、北斗市開発の倉庫前にあるこの看板。米麦改良協会がふっくりんこのＰＲのために立てました。「この街がこのお米の故郷！！」「自信をもって全国へ！」という言葉が熱意を感じさせます。

特　集

若者のパワーを結集！

青年部の活動をご紹介

若手農家たちが自由な発想で活躍している、我らがJA新はこだて青年部。その活動は、農業経営の向上にむけた学習や地域貢献をはじめ、部員同士の交流、後継者対策など、とても幅広い活動をしています。
前回の定期総会から1年が経とうとしている今、1年間の様々な取り組みを振りかえります。

青年部って何をしてるの？

明るい未来に向け、さまざまな活動に取り組んでいます！

７地区・２７０名ほどの若手農家が、地域社会や農業の活性化のために活動しています。その取り組みは、消費者との交流やＰＲ、盟友同士の親睦、スキルアップに向けた勉強会などさまざま。全道・全国の青年部との交流や農業先進地への視察など、道南にとどまらない活動もしています。

講義・勉強会

危機を乗り越える ～「TPP関連政策大綱」学習会

1月20日、北海道農政事務所を招いて「総合的なTPP関連政策大綱」についての勉強会を開きました。政府が示した政策に対して、厳しい質問が相次ぎました。

永田町に想いを伝える ～ 前田一男代議士と意見交換

2回目となる今回は「TPP及び今後の道南農業について」と題して議論を交わしました。前田議員から熱い激励をいただき、青年部活動への士気も高まりました。

総会・大会

1年の始まり～ 第12回青年部定期総会

盟友が一堂に集まる、年に1度の大事な会です。新役員体制が選任されたほか、「農畜産物のPRの充実」などについて熱い議論が展開されました。盟友の思いを受け、農業や地域の活性化に向けて決意を新たにしました。

2年連続で表彰 ～ ポリシーブック全国大会

当青年部で力を入れているポリシーブック（行動計画集）が優良事例に選ばれ、表彰されました。確実に取り組める行動目標を設定し、PDCA（計画・実行・確認・改善）サイクルを徹底する姿勢に高評価を頂きました。

視察研修

共通の仲間と交流 ～ JAふらの青年部視察研修

広域合併した青年部同士で、毎年交流しています。今年はJAふらのにお邪魔して、堆肥化施設や大規模な集出荷場を見学しました。また、婚活事業など幅広く意見交換し、有意義な交流になりました。

良い所を吸収しあおう ～ 管内視察研修

毎年、生産技術の向上や部員間の交流を目的に、部員の圃場を訪れています。今回は役員9名が、厚沢部にある圃場を視察させてもらいました。

先進の農業を学ぶ ～ 大野地区青年部が視察研修

後継者対策

カップル4組に祝福 ～ 森地区で婚活パーティー

12月12日、「ファーマーズカップリングParty2015」を開きました。1泊2日の期間中、参加者はディナーやボウリングを楽しみながら仲を深め、見事4組のカップルが成立しました。夏には大野地区青年部が「食農体験型婚活in北斗」を開き、収穫体験などで交流。6組のカップルが誕生しました。

終わりに…青年部からひとこと

今年も地域農業に貢献し仲間との絆を深められるよう、青年部活動に一層の努力をしていきます！　至らない点も多いかとは思いますが、今後とも青年部活動にご理解とご協力をよろしくお願いします!!

facebookページで最新情報を随時更新中です！
ぜひ「いいね！」をお願いします！
https://fb.com/1551402978477337/

地域貢献活動

会場は笑顔でいっぱい！ ～ 食と農と愛をつなぐフェスティバル

地域の方と交流するために毎年開催しているこのイベント。今年は初めてあぐりへい屋でお祭りを開催しました。たくさんの方にご来場いただき、米すくいや馬鈴薯つめ放題などの農家らしい企画を楽しんでもらいました。また、はこだて和牛入り焼きそばや新鮮野菜の格安販売コーナーも大好評でした。

地域密着で盛り上がる ～ 各地でお祭りに出店

夏祭りや収穫祭で屋台を出店して、盛り上がりに一役買いました！　定番の焼き鳥やかき氷だけでなく、はこだて和牛の串焼きや手作りピザも大人気でした。

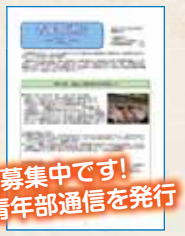
我が街を美しく ～ 地域清掃活動

部員間交流

記念の年を盛大に祝う ～ 森地区青年部60周年記念祝賀会

OBや組合員、JA・町関係者などから来賓をお招きして盛大に祝いました。甲田部長は「先輩の思いを受け継ぎ、未来に向けて挑戦したい」と抱負を表しました。

地区をまたいで交流を ～ 若松・北渡島意見交換交流会



投稿募集中です！ ～ 青年部通信を発行

1人ひとりの力を合わせ、大きな力に。〝協同の力〟で地域農業をけん引する組織を紹介していく。

農家経営の一翼を担う、女性の力

八雲地方酪農青年研究連盟女子研究会

設立1964年、会員　17人

●設立経過についてお聞かせ下さい。

渡辺会長　初代の八雲町酪農青年研究会委員長の「豊かで幸福な生活の実現には男性だけではなく、女性の力も必要だ」という呼びかけに応えて集まったのが、始まりです。

全国初の女子酪青研として昭和39年に誕生してから、50年以上が経ちます。設立当時は女性部の活動以外で外に出るのに、家族の理解を得ることが難しかったと聞いています。

吉田副会長　女子酪青研は、八雲から全国に広がっていきました。

ですが、年数が経つにつれて状況は変わってきています。家族経営の減少や仕事が忙しいなどの理由で、活動に参加できる人が少なくなってきました。また、以前は結婚したら加入するのが当たり前でしたが、最近はそうではありませんので、会員も以前に比べて減っています。

●これまでの活動内容をお聞かせ下さい。

渡辺会長　女子酪青研では、消費者交流会や学習会を年2回ほど開いています。消費者交流会の目的は当初、消費拡大でしたが、最近では牛に親しんで酪農を理解してもらうことに変わっています。

たとえば、牛乳がどのように食卓に届くのかについて、親子を対象に食育活動をしています。また、アイス作り体験は、手軽に作れて人気があり、酪農に親しんでもらうのにいいと感じています。

吉田副会長　学習会で良い情報を聞いたら、女性はすぐに取り入れるので、日々の経営に役立っています。毎年、内容を考えるのは大変ですが、会員の役に立てばという思いで続けています。

今までの活動で、会員の牛舎周りを見る研修は、各自の工夫を見ることができ、参考になりました。視察研修で町外の施設を見ることも、自分の経営を見つめ直す機会になります。

●今後の課題を教えてください。

吉田副会長　会員の減少です。会員のニーズに応えられていないことが原因だと思います。皆でよく話し合い、会員を増やす努力をしていきたいと思います。若い人にも振り向いてもらえるよう、様々なメリットを伝えられればと考えています。

これからも仲間と共に楽しんで活動していきたいです。

渡辺会長　会員の確保が課題です。若い人にとっては、年齢も離れていて話題も違うので加入しづらいかもしれません。しかし、先輩の様々な話が聞けることが、私は良いと思っています。これからも、この歴史ある大切な会を守りながら次の世代へ繋げていけるよう、会員みんなで地道に努力していきたいです。

〈取材　八雲支店　中村　愛恵〉

新婚さん！ハッピートーク ゴール&スタート vol.10

結婚というゴールを迎え、新たな人生をスタートさせた二人の出会いから交際、結婚にいたるまでの経過を紹介していく

北斗市　東前
春山　雅文さん（28歳）
香織さん（28歳）

【写真上】トラクターで除雪作業をする雅文さん。「香織さんの手料理はどれも美味しいです」と笑顔。
【写真左】雅文さん、香織さん、２歳の広翔くんと自宅前にて。「いつか家族でハワイ旅行に行きたいです」と語る２人。

メールで積極的にアプローチ

●二人の出会い…

春山雅文（まさふみ）さんと香織（かおり）さんは、平成25年1月17日に入籍した。

２人の出会いは、自動車免許取得のために通っていた自動車学校。香織さんを見て好意を持った雅文さんが、共通の友人に紹介してもらったのが初対面だった。初めて見たお互いの印象について、雅文さんは「オシャレでカワイイ」、香織さんは「不良っぽい雰囲気で、髪の毛が凄かったのが印象的」と語る。

その後、雅文さんからメールなどで積極的にアプローチをして告白。交際がスタートした。

●交際期間中…

約10年間の交際期間中で特に印象に残っているのは、沖縄での生活。「若い時の勢いで行ったけど、すごく楽しくて良い思い出になった」と２人は話す。その他にも、色々な場所を２人で旅行したのが思い出に残っていると話す。

雅文さんは「一度別れて、再び交際した時に結婚を意識していた」という。そして、雅文さんから結婚の話をされたときの気持ちを香織さんは「嬉しかった。やっぱり結婚するならこの人かなと思っていた」と振り返る。

●これから…

現在、トマト・長ネギなどを作付。雅文さんは「今後、トマトの作付面積を増やし、反収アップにも取り組みたい」と意気込む。

香織さんは現在、２歳になる広翔（ひろと）くんの子育てで忙しい毎日。「農作業はしたことがないけど、これからは自分のできることを手伝っていきたい」と意気ごむ。

最後に、２人へ「結婚して良かったことは？」と訊くと、雅文さんは「自分にないものを持っていて、一緒にいて楽です」、香織さんは「人生が変わった。生きていく道ができました」と笑顔で答えてくれた。

〈取材　大野支店　藤澤　純一〉

大妻高生がアイデアを競う
「ふっくりんこ」創作料理発表会

◀創作料理を前にあいさつする生徒たち

函館大妻高等学校の食物健康科１年生３７名は１２月１６日、同校で「ふっくりんこ創作料理発表会」を開いた。田植えから収穫・脱穀までの一連の米づくりを学ぶ食育授業の集大成。授業に携わった生産者やＪＡ職員、関係者ら約２０名を招待し、創作料理を振る舞った。

生徒は８班に分かれて料理を考案。招待客が審査を行い、肉料理で「豚ばら丼茶漬け～ゆずを添えて」、魚料理で「さんまロール寿司」が１位を獲得した。

生徒代表は「米づくりを通じて色々な方にお世話になったので、料理で恩返しをしたいです。どうぞお召し上がりください」と挨拶した。

新年を風の子もちで祝って
関係機関に鏡餅を寄贈

◀鏡餅を飾る永井部会長（右）と三戸部局長（左）

八雲町もち米生産部会は昨年１２月２８日、豊穣に感謝するとともに翌年の豊作を願い、渡島総合振興局と北斗市、当ＪＡに「風の子もち」で作った鏡餅を寄贈した。同部会からの寄贈は毎年恒例。

二段重ねの鏡餅は直径３５センチ、重さ約８キロ。渡島振興局では、三戸部正行局長が「立派な鏡餅をありがとうございます」と笑顔で受け取り、庁舎入り口に飾られた。その後、北斗市・当ＪＡでもそれぞれ贈呈式が行われた。

同部会の永井和広部会長は「もち米の消費が伸び悩むなか、出来ることを全てやり消費拡大に力を入れたい」と意気込みを語った。

はこだて和牛をアピール
木古内寒中みそぎ祭りで

◀サイコロステーキを買い求める観光客ら

１月１５日、木古内の伝統神事「第１８６回寒中みそぎ祭り」の協賛イベントで「はこだて和牛・グルメ魅了フェア」が行われた。

用意した和牛は３０キログラム。和牛生産者ら１５人が、鉄板でサイコロステーキを豪快に焼き上げ、１皿２００円の格安価格で販売した。テント前には長い列ができ、販売開始から３０分で５００食を完売した。

北海道新幹線開業を控え、道の駅「みそぎの郷きこない」もオープンし、町は歓迎ムード一色。

函館市から訪れた夫婦は「肉が柔らかくジューシーでおいしい」と笑顔を見せた。

初の販売額３億円突破を祝う
桧山南部立茎アスパラガス生産組合

◀祝賀会であいさつをする根津組合長

桧山南部立茎アスパラガス生産組合は１２月８日、販売額３億円達成の祝賀会を開いた。生産者や関係者ら７０名が集まり、一層の生産振興を誓った。

桧山南部の立茎アスパラ栽培は乙部が発祥。その後、厚沢部・江差・上ノ国・奥尻・熊石の農家が加わり、共選機械の導入や補助事業等で面積が拡大。

今年度は９７戸が約１８ヘクタールに作付。春芽の出荷が５月末で前年対比３割増となるなどおおむね順調に推移し、販売額３億円を達成した。

同生産組合の根津貴浩組合長は「手探りの状態からここまで来られて感慨深い。今後も生産者一丸となって４億円達成を目指したい」と挨拶した。

八雲酪農の発展に向けて
冬季酪農学校・酪農セミナー

◀講師の説明に熱心に耳を傾ける参加者

八雲地方酪農青年研究連盟と酪農生産部会八雲支部は１２月１１日、同町活性化施設で「第７１回冬季酪農学校・酪農セミナー」を開いた。熊本県酪連の牛之濱泰崇氏とホクレン函館支所の江竜勝弥課長が講演し、酪農家約３５名が聴講した。

テーマは「アフリカ・ルワンダ体験記と熊本県の酪農」「乳製品需要拡大事業」の２つ。講演後は「他地域での酪農の実情」や「乳製品の消費拡大対策」などについて、質疑応答が活発に交わされた。

同連盟の三澤公雄会長は「２組織で広く意見を取り入れて開催できた。今後も更に有意義な勉強会を開き、酪農経営の発展に繋げたい」と話した。

伝統の赤かぶを漬け物に
函館女性部が千枚漬けづくり

◀千枚漬の袋詰めをする女性部員

函館支店女性部加工部会は１２月１８日、伝統野菜「函館赤かぶ」を使った千枚漬の漬け込み・容器詰め作業を行った。

漬け込み作業は、赤かぶを薄切りにして漬物樽に敷きつめ、酢・塩などで味付けする。着色料を使わない自然の赤が特徴。完成した千枚漬は、１２月上旬から４月頃まで容器詰めされる。生産量は毎年増えていて、４年目となる今年は６５０㌔を仕込んだ。

同部会の関本恵美子さんは「消費者においしく食べて喜んでもらいたいです」と話す。

千枚漬は、ホクレンショップ等で販売するほか、湯の川温泉のホテルや旅館の食事で提供される。

地域農業の将来を考える
「担い手養成講座」を開催

◀参加者は「親の世代にも聞いてほしい内容だった」と手応えを話した。

１２月から１月、各支店で担い手養成講座が開かれた。今年度は共通テーマとして「法人化」を設定。それを基に各地区で独自の講座が開かれた。

若松支店では１２月１５日、檜山農業改良普及センターの渡部正章主査を招き「これからの地域の農業を考える」をテーマに講義を開いた。

冒頭では収支をシートに記入し、自らの経営への理解度をチェック。その後、後継者不足の実態や今後の予想が示され、法人化をはじめ労働補完システムや作業受委託といった対応策が紹介された。

また、伊藤慶晋営農センター長より、生産者の年齢構成や農地面積の将来予測が紹介された。

農家の家庭料理が大集合
第８回新・かあさんの味自慢

◀多彩な料理の数々に箸をのばす市民ら

大野支店女性部は１月１６日、「第８回新・かあさんの味自慢」を北斗市農業振興センターで開いた。女性農業者組織「一期会」「かりんの会」との共催。

このイベントは、農家が普段家で作る家庭料理や漬物、お菓子などを試食形式で市民に披露するもので、毎年恒例。約１２０点の多彩な料理を目当てに、開始前から２００人以上の行列ができた。

このほか会場では、そば打ちの実演や日用品のバザーなども行われ、賑わった。

市内から訪れた主婦は「知人が料理を出品するので初めて足を運んだ。品数が多くどれを食べてもおいしい」と話した。

Focus the JOB ～JAの仕事を紹介します～

今回は厚沢部支店営農センター。

組合員の目線に立った営農センターの構築に努めます

農協まつり大収穫祭で販売を補助

営農課・生産施設課がある事務所

厚沢部支店営農センターは、営農課・生産施設課・生産資材課の3 課から構成されています。当地区では、馬鈴薯・アスパラ・サヤエンドウの他、水稲・大豆・肉牛など様々な品目を取り扱っています。

営農課では、各種交付金業務や補助事業に関する事務に加え、経営に関する指導業務なども行っています。そのほか、畜産に関する指導及び販売業務も行っています。生産施設課では、倉庫などの施設運営や管理業務、生産組織の運営事務や農産物の集荷・販売業務を行っています。また共選業務では原料保管をしているので、品質管理には特に注意して取り組んでいます。生産資材課では農業資材の各種取り纏めや配達業務などを行っています。そして、迅速な配送体系の確立に取り組んでいます。

これからも組合員目線での対話を心がけ、営農の手助けができる営農センターの構築を目指し、職員一丸となって頑張っていきます。

【連絡先】

檜山郡厚沢部町新町183-3

営農課
ＴＥＬ：0139-67-2805
ＦＡＸ：0139-67-2805

生産資材課
ＴＥＬ：0139-67-2846
ＦＡＸ：0139-67-2068

檜山郡厚沢部町松園町5-4

生産施設課
ＴＥＬ：0139-67-2175
ＦＡＸ：0139-67-2292

檜山農業改良普及センター

1　秋まき小麦「きたほなみ」施肥試験（檜山本所）

（１）内容　試験区①DdNP73　試験区②BBNK52CR　による起生期 の１回追肥
慣行区 硫安による起生期、幼穂形成期、止葉期 の３回追肥
窒素成分は、基肥＋追肥で全ての区で18.7kg/10aとした。

（２）結果　慣行区と比較して、２．４mm以上の子実重は、①区で９６％、②区で９９％とほぼ同等であった。どちらの肥料も起生期１回の追肥で収量、タンパク値ともほぼ同等の結果であった。肥料費は２，０００～２，５００円／１０ａ程度高くなるが、作業時間や各経費、他作物との労働競合から幼穂形成期と止葉期に追肥できないリスクを考慮すると、当地区での利用は可能である。

表1　調査結果

試験区分	成熟期（月日）	6/24 葉色値	成熟期の 稈長（cm）	穂長（cm）	穂数（本/㎡）	子実重（kg/10a）	千粒重（g）	子実タンパク（%）
試験区①	7/13	51.9	83.5	9.3	960	443.2	40.7	10.8
試験区②	7/13	51.3	81.3	9.6	868	456.1	40.8	10.7
慣行区	7/12	50.3	84.3	9.6	848	462.6	41.9	9.8

※子実重は2.4mmふるい上。水分は12.5%に補正した。※タンパク基準値　9.7～11.3%（許容値　8.5～12.5%）

2 水稲への「とれ太郎Ｐ」施用効果確認試験（檜山北部支所）

（１）内容

区　分	資　材	基肥 (kg/10a)	追肥 (kg/10a)
試験１	とれ太郎Ｐ	60	0
試験２	とれ太郎Ｐ	50	10
慣　行	ケイカル	100	20

「とれ太郎」は、弱酸性（pH5.5付近）での溶解性が高く、ケイ酸の吸収効率が高いとされています。
「とれ太郎P」はカーボンブラック添加で、融雪効果をプラスしたもの。

	成分（%） く溶性燐酸	く溶性苦土	可溶性珪酸	アルカリ分
とれ太郎Ｐ	6.0	12.0	30.0	40.0
ケイカル	－	1.0	30.0	45.0

（２）結果

① 「とれ太郎Ｐ」施用区は生育がやや早まり、仕上がりが良かった。追肥体系（試験２）では、収量・品質及び蛋白は慣行とほぼ同等であった。
② 「とれ太郎Ｐ」は施用量がケイカルの半量で済むことから、追肥を実施した農家の評判は良かった。
③ 価格は、ケイカルの半量施用で慣行とほぼ同等である。
④ 施用に当たっては、土壌分析により燐酸、苦土の要否を検討する必要がある。
⑤ 基肥同一による追肥効果だけの比較は行っていない。

9/25試験2（とれ太郎P追肥区）

3 具体的データ

区　分	6月22日 草丈（cm）	㎡茎数（本）	出穂期	9月25日 稈長（cm）	穂長（cm）	㎡穂数（本）	成熟期	不稔歩合（%）	精玄米重（kg/10a）	収量比（%）	千粒重（g）	等級	精米蛋白（%）
試験１	26.7	394	8/5	76	16.5	633	9/22	5.2	489	96	23.8	1上	7.1
試験２	26.6	394	8/6	73	15.9	594	9/23	4.9	506	100	24.0	1中	7.1
慣　行	27.2	330	8/7	78	17.0	630	9/24	4.5	508	(100)	23.7	1中	7.0

（試験実施地区：今金町）

～第28回JA北海道大会 パネルディスカッション①～

JA北海道大会で開催したパネルディスカッションでパネリストの皆さんから提言頂きました「北海道農業とJAグループに期待すること」をシリーズで紹介します。

農業価値の向上をけん引する北海道農業
若者がほしがる我が国農業

北海道経済連合会　名誉会長 近藤 龍夫 氏

第1回は、近藤龍夫氏の提言を紹介します。

近藤 龍夫 氏（こんどう たつお）
北海道経済連合会 名誉会長
公益社団法人北海道観光振興機構 会長

北海道が率先して国民への農業価値理解活動を

農業価値とは農業の存在価値的な意味合いと理解して頂きたい。

世界的には、『国土を確保して守ること』、『エネルギーを確保すること』、『農業を主とする食を守ること』、この3つが国として最低限やらなければならないこと。

国家的に食・農業を価値ある重要なことと位置付けている国がたくさんある。食・農業を大事にしなければならない。

しかし、わが国では、農業の重要性、農業価値が忘れられてきた感がする。

将来的には世界的な食料危機がささやかれ始めており、今こそ農業の重要性の国民的な理解が必要。政治や、幼少教育の場などを通じて農業立国北海道が率先して理解活動を行っていくべき。この理解こそが正しい農業の普及につながる力にもなる。

北海道農業実現に向け国の制度づくりを

これからの農業政策において、国民に必要な基礎的な食材にあたる重要品目については、国が一定の自給力を確保するということを前提として、確たる生産目標と、その実現のための政策・制度を定める。そして、目標達成に協力する優良な農家が安心して生活し、生産に励むことができるように守るべくところは守るなどして、生産環境を整備していく必要がある。

このような生産環境づくりの政策提言や生産活動の推進すなわち農業価値向上のけん引役として、北海道が産学官一体となって国を動かして実現を目指すべき。

これらが実現してこれまでの猫の目のように変わる対策型の政策ではなく不動の政策となれば、国民とりわけ農業者の望むところであって、「若者が欲しがる農業」として目指すところが明確になるので、将来に希望がもてる北海道農業が実現していくのではないかと信じている。

行きつくところ、日本の農業は、北海道的な農業に変わっていくべき。それが、世界の常識的な農業の姿。

積極的に中央に出ていき、国の制度作りに参加する。北海道農業に近い制度をつくるようにもっていく。それには農業者だけでなく、北海道大学にも担ってもらう。また、例えば農業に経済的なセンスを入れるときも、経済家ではなく、農業経済は農家がやれるよう北海道大学に力になってもらう。農業経済は農家に任せておけというくらい、農業者は日本経済全体にも関わっていく力を持つべきで、農業の専業地帯である北海道から発信するのが産学連携の形である。

そろそろ日本の農業構造を変えるべき時に来ている。やはり、北海道から発信していくのが一番素直な姿であり、スタートポイントになって欲しい。

最後に一言

力強い農業が今回の大会の基本目標になっている。

そのためには生産、加工、流通、販売、それぞれがこれからの農業には特に科学的に、そして経済学的にも世界の最先端、高度化を図って日本の農業をリードする、そんな北海道農業になって頂きたい。

— JA新はこだて —

北海道新幹線開業記念キャンペーン 定期貯金

キャンペーン期間

2月15日(月)▶3月31日(木)

JR北海道商品化許諾済

北海道新幹線開業PRキャラクター
どこでもユキちゃん

HOKKAIDO SHINKANSEN

対象 定期貯金新規お預入れ及び増額書替(ともに50万円以上)のお客様

5年定期 開業日にちなんで ⟹ **0.326%**(年)

3年定期 **0.226%**(年)

1年定期 **0.126%**(年)

キャンペーン専用貯金証書でお作りします。

JA特産品プレゼント 定期貯金50万円以上お取組の個人のお客様に
ふっくりんこ玄米緑茶を2本プレゼント!
※1回に複数本お取組になってもお一人様2本となります。

募集総額
20億円
キャンペーン期間中であっても募集総額に達し次第販売を終了させていただきます。

表示有効期限:平成28年3月31日

JA新はこだて
〈HPアドレス〉http://www.ja-shinhakodate.jp/

理事会開催報告

第12回　理事会(定例)議案　日時:平成27年12月22日(火) 10:30～　場所:北斗市総合分庁舎

議 案

1号　役員報酬審議会委員の選任について
2号　北海道農業信用基金協会への外部出資の増額について
3号　平成27年度決算棚卸及び棚卸抽出検査の実施について
4号　個人情報保護方針及び個人情報保護法等に基づく公表事項等の一部改定について
5号　特定個人情報取扱規程の制定について
6号　個人情報取扱規程の一部変更について
7号　従業員個人情報取扱規程の一部変更について
8号　個人情報保護に係る内部監査規程の一部変更について
9号　平成27年度実質破綻先債務者の貸倒償却及び利息減免について
10号　理事に対する平成27営農年度組合員勘定供給限度額の変更について
11号　理事に対する平成28営農年度組合員勘定供給限度額等及び物品取引契約の限度額について
12号　平成28年度役員報酬額の諮問について

第13回　理事会(定例)議案　日時:平成28年1月25日(月) 12:00～　場所:花びしホテル

議 案

1号　第3四半期定期監査に対する回答について
2号　地方公共団体に対する貸付に係る事前承認について
3号　平成28年度内部監査計画（案）について
4号　施設利用料の見直し（案）について
5号　平成28年度営農販売事業における料金・料率の設定（案）について
6号　桧山南地区アスパラ共同選別施設増設に係る取進めについて
7号　平成28年度事業計画基本方針（案）について
8号　平成28年度事業計画〈固定資産取得・処分〉（案）について
9号　平成28年度事業計画〈取扱・収支〉（案）について
10号　平成28年度役員報酬額の決定について
11号　農業委員の推薦について
12号　平成28年度経営定期点検実施計画について
13号　生乳増産奨励対策事業（案）について
14号　平成28年度金融機関貸付方針（案）について
15号　理事に対する共済担保貸付並びにクミカン供給限度額変更に係る包括事前承認について
16号　平成28年度余裕金運用（案）について
17号　平成28年度余裕金預け先金融機関について
18号　平成28年度余裕金運用計画額および運用方針（案）について
19号　資産査定要領の一部変更について
20号　自己査定マニュアルの一部変更について
21号　担保評価マニュアルの一部変更について

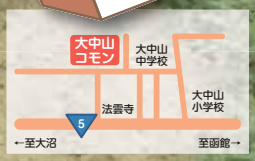
第18回 道南農業新技術発表会

参加料無料

道南農業試験場などが開発した最新の農業技術等を、いち早く皆様にお伝えします。

日　時　平成28年2月23日(火) 13:00～16:00
（受付 12:30～）

場　所　大中山コモン　七飯町大中山3丁目 TEL：0138-65-9711



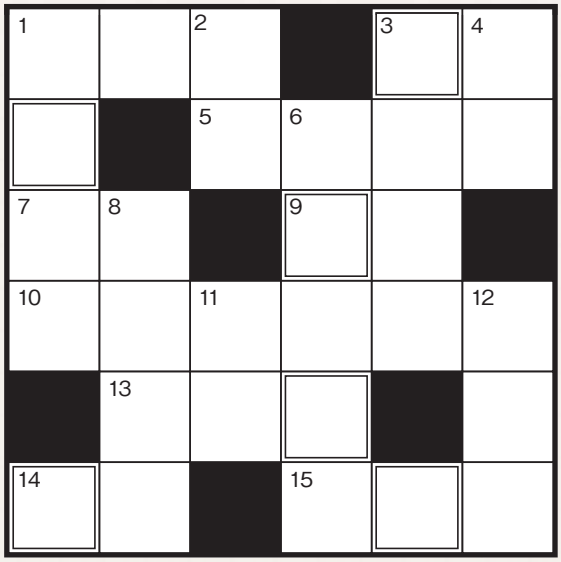
内容
●ハウス春野菜収穫後の施肥対応　●りんごやイチゴの新しい品種　●施設ホウレンソウのコナダニ被害の軽減策
●平成27年度に発生した注意すべき病害虫　●農業改良普及センターの活動紹介　など

お問い合わせ先　地方独立行政法人 北海道立総合研究機構　農業研究本部　道南農業試験場　TEL0138-77-8116

みんなのまるめ邸広場

クロスワードクイズ

二重マスの文字を並べてできる言葉は何でしょうか？
中には今月号のえすぽわーるにヒントのカギがあるかも。



■ タテのカギ

1 その色が自慢の北海○○○○チコリー。
2 中島みゆきの名曲です。
「♪縦の○○はあなた　横の○○は私」
3 サボる力士を、板についたままの様子から例えてこう言います。
4 自分の強み。
6 車で通るのが大変なガタガタの道。
8 ○○○○棒、火の○○○○。
11 1km 先が見えないのが霧、では 1km 先が見えるのは?
12 剣道の剣。

■ ヨコのカギ

1 北斗市は 41 度、北極点は 90 度。
3 函館女性部特製「赤○○の千枚漬」。
5 その場から離れて○○○○に見る。
7 現在の愛媛県。
9 両親のこと。
10 稲、小麦と共に世界三大穀物に数えられます。
13 食べ物の保存容器です。
14 ちっ素、カリウムと○○酸が肥料の三要素。
15 ○○○クリーニング。

キーワードヒント 冬が旬です。

プレゼント クイズの正解者の中から抽選で3名様に、以下の3種類からお好きな商品を3袋をお送りします。希望のプレゼントをご記入ください。

農協ラーメン（1袋2食入り）

農協のトマトカレー（1袋1食入り）

はこだて産本格いかめし（1袋2杯入り）

あて先 クイズ&投稿は、郵送またはFAX、メール、ホームページのメールフォームで受け付けております。

〒041-1201 北斗市本町1丁目1番21号
JA新はこだて企画室　FAX:0138-77-5566
✉ E-mailアドレス　shinya.toda@ja-shinhakodate.com

JA新はこだてfacebookページ 随時更新中！最新情報をチェックして下さい！

２０１５年２月１日に開設したfacebookページは、先日、１周年を迎えました。１年間で載せた記事は７７件。組合員の皆様にご協力いただき、随時最新情報を掲載してきました。

閲覧回数が一番多かった記事は森地区の婚活パーティの告知で、６,８００人ほどの方に見ていただきました。

今後も随時、更新していきますので、ぜひチェックしてみてください！

https:// fb.com/290040037860988/

JA新はこだて　facebook　検索

↓応募用紙はこちら（切り取ってハガキにそのまま貼ってね。）

応募締め切り ２月19日（金）（当日消印有効）

※下記応募用紙には必ず全て記入して下さい。※コメントのないものは無効とさせて頂きます。

キーワード □□□□□□

ご希望のプレゼント　※下記のいずれか1つに○を付けて下さい

農協ラーメン・農協トマトカレー・函館産いかめし

住所
〒　　－

氏名　　年齢　　TEL
ペンネーム　　才　　－　　－

組合区分　正組合員・准組合員・その他　※○を付けて下さい

コメント ※広報誌へのご感想やご意見・ご要望、身近なできごとなどについて教えてください。

キリトリ線

地元産の食材をふんだんに使った「若松ポーク丼」1,200円（税込）

広げよう！地産地食図鑑

★２３品目★
若松ポーク丼

地場産の豚肉や野菜がつまった人気のどんぶり

今月は、若松地区の㈲高橋畜産が生産するブランド豚「若松ポークマン」を使った料理をご紹介します。去年、開業20周年を迎えた「温泉ホテルきたひやま」のレストラン「まこまない」。岩田一行料理長がイチ押しの「若松ポーク丼」を作っていただきました。

甘みがあり、脂のしつこさを感じさせないのが特徴の若松ポークマン。相性バツグンの地場産ニンジン・しいたけ・玉ねぎ・長ねぎと一緒に、ごまを混ぜた特製の醤油ダレで炒めます。それを熱々のごはんの上に盛り付けて完成です。10年以上前に開発され、今でも幅広い世代から人気の一品です。

岩田料理長は「地元の食材を積極的に使って、他では味わうことのできない料理を提供したいです」と笑顔で語ってくれました。

厳しい出荷基準をクリアした若松ポークマン

「他にもおいしい料理がたくさんありますので、ぜひいらしてください」と岩田料理長

レストラン まこまない（温泉ホテルきたひやま内）
住所：久遠郡せたな町北檜山区徳島４-１６　ＴＥＬ：0137-84-4120
営業時間：昼の部 11：00 ～ 14：00、午後の部 14：00 ～ 17：00、
夜の部 17：00 ～ 21：00（ラストオーダー 20：30）

編集後記

昨年11月のＪＡ北海道大会で、「北海道民５５０万人と共に創る」というビジョンが掲げられました。地域住民や消費者とのつながりを強くしよう、という趣旨です。

広報に当たっては、そういった方々に向けた情報発信の重要性が高まっています。「えすぽわーる」でも、主たる読者は農家組合員の皆様であることはもちろんですが、今年は地域の方々に読まれることも意識したいと思います。道南の農畜産物の魅力を正確に発信できるように努力しますので、今後ともよろしくお願いします。（真）

まるめ郎アルバム

函館公園の上から。
なかなかの景色！
寒いし、ボクも上着着ようかな。

えすぽわーる新函館
第162号　平成28年２月10日発行
発　行／新函館農業協同組合
住　所／〒041-1201　北斗市本町1丁目1番21号（北斗市総合分庁舎隣）
電　話／0138−77−5555（代表）
ＦＡＸ／0138−77−5566
編　集／企画室
印　刷／有限会社　三和印刷

JA新はこだて facebook
ＪＡ新はこだてホームページからもご覧いただけます。
こちらも、よろしくお願いします。

「えすぽわーる」とはフランス語で「希望」という意味。「えすぽわーる新函館が読者の皆さんに希望を届ける広報誌になって欲しい」という願いが込められています。